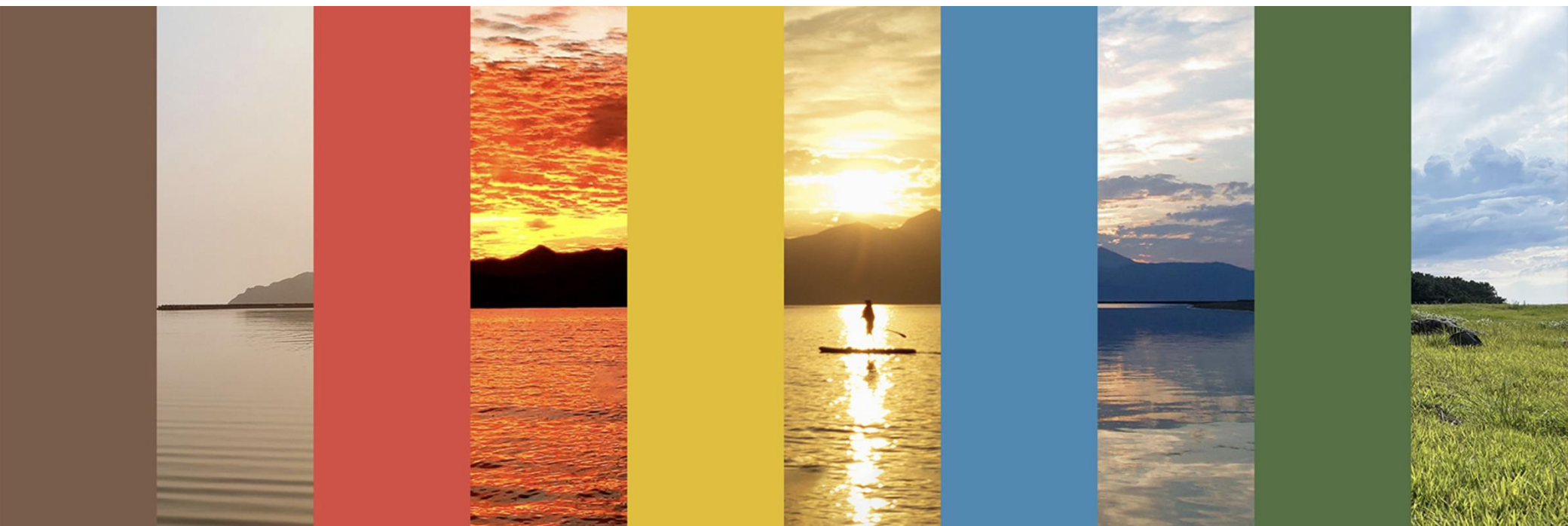




第3次 唐津市総合計画 基本構想 骨子

目次

序論

<u>I. はじめに</u>	1
1. 策定の趣旨	2
2. 計画の期間と構成	3
3. 計画の進行管理	4
4. 社会の潮流	5
5. 市の現状	9
5 - 1. 市の概要	9
5 - 2. 市民意見	10
5 - 3. 市を取り巻く環境や課題	15
6. 将来人口推計	21

基本構想

<u>I. まちづくりの基本方針</u>	22
1. めざすまちの姿	23
2. 基本目標	24
3. 基本姿勢	25
<u>II. 計画体系図</u>	26

序論

I. はじめに

1. 策定の趣旨
2. 計画の期間と構成
3. 計画の進行管理
4. 社会の潮流
5. 市の現状
6. 将来人口推計

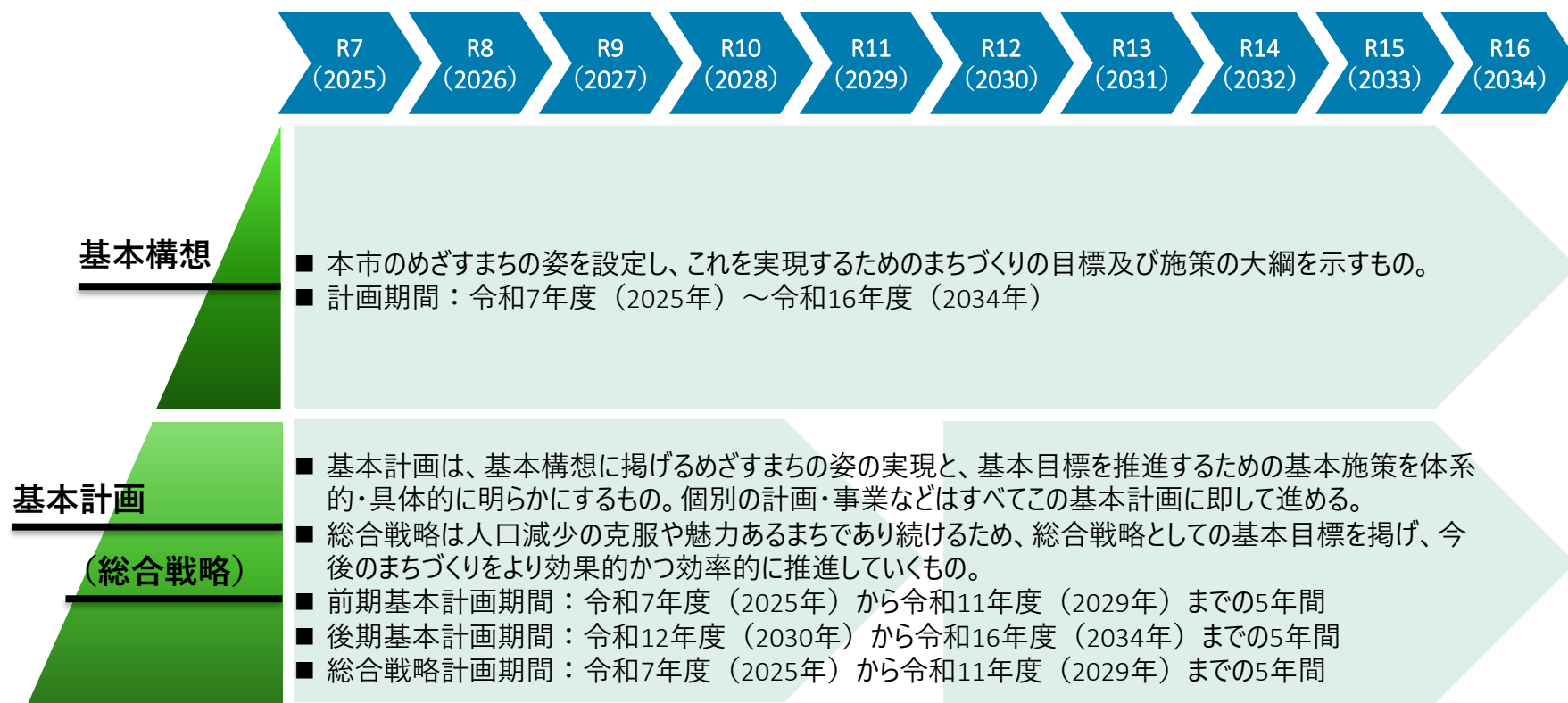
I. はじめに

1. 策定の趣旨

- 総合計画とは、市がめざすまちの将来像を掲げ、その実現のために実施する施策を体系的・計画的に進めていくための指針となるものです。
- 本市は平成17年及び平成18年に9市町村が合併により誕生し、平成18年度に第1次総合計画、平成27年度に第2次総合計画を策定しました。第2次総合計画においては、平成27年度から令和6年度までの10年間を計画期間とし、「市民力・地域力によるまちづくり」を基本理念、「海と緑にかこまれたここちよい唐津」を将来の都市像として掲げ、その実現に取り組んできました。
- この総合計画の中で課題として捉えた「少子高齢化」「人口減少」等の課題は、さらに進展しており、第3次唐津市総合計画を策定するにあたって、これらの課題に対応していくことは非常に重要です。また、「感染症対策」「デジタル化の進展」など、新たな社会経済情勢への対応も重要です。
- これらのことから、第3次唐津市総合計画の策定にあたっては、基本的に現総合計画の考えを引き継いだうえで、新たな社会経済情勢に対応しつつ、唐津市の強みや地域特性、有用な資源を最大限に活かしながら未来へつなぐとともに、必要なサービスを安定して提供することができる、持続可能な地域を目指すための取組みを推進する計画を目指すこととします。
- また、市民とともにつくる総合計画とするため、行政としての説明責任を果たし、透明性の向上を図ることはますます重要となります。同時に多様化する市民ニーズに柔軟に対応できるよう、行政資源を最大限、効果的かつ効率的に活用する行政運営も求められています。
- そこで本市では、「行政が何をどれだけ行うか」ではなく、「計画に掲げるまちの姿にどのくらい近づいたのか」「それぞれの事業がどのように貢献したのか」などを評価し、その結果を次の事業の企画や実施などに反映していく仕組みである「行政評価」によって引き続き総合計画の進行管理を行っていきます。

2. 計画の期間と構成

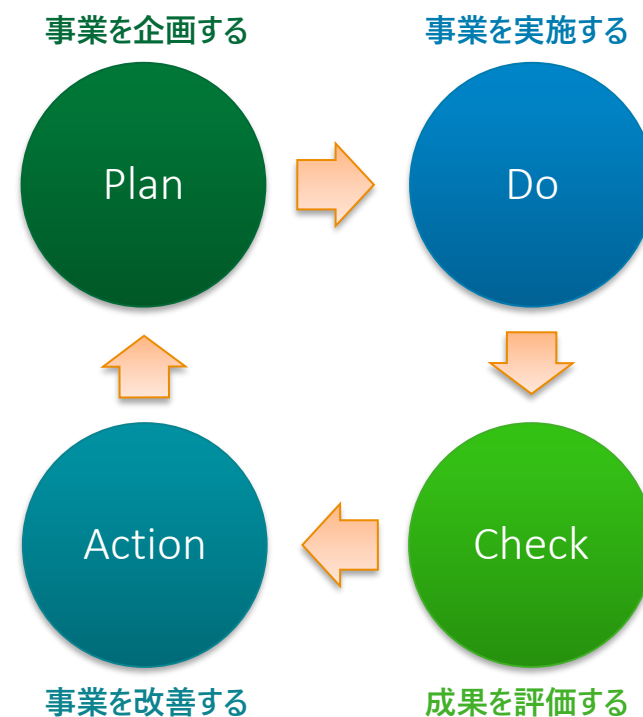
- 本計画はまちづくりの基本的な方向性を示す**最上位計画**であり、長期的な展望にもとづいて本市がめざすまちの姿を示すとともに、総合的かつ計画的な行政運営をはかるため、各行政分野の方針などを明らかにするものです。
- そのため、将来のまちづくりを計画的に進めるとともに、**今後の社会経済情勢の変化に柔軟に対応することができるよう、計画の構成は「基本構想」「基本計画」の2層構造としています。**
- また、本市の重要課題である人口減少社会に対応し、将来にわたって活力ある地域社会を実現するため「まち・ひと・しごと創生法」にもとづく**「唐津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を総合計画と一体的に策定し、今後のまちづくりをより効果的かつ効率的に進めていきます。**



3. 計画の進行管理

- 総合計画を市民とともに作る計画とするため、行政としての説明責任を果たし、透明性の向上を図ることはますます重要になっています。
- また同時に多様化する市民ニーズに柔軟に対応できるよう、EBPMの観点から根拠を明確にし、行政資源を最大限、効果的かつ効率的に活用する行政運営も求められています。
- 本市では、**総合計画の進行管理手法としてPDCAサイクルを活用します**。「計画」「実行」「評価」「改善」という4つの段階に区別し、1つのサイクルとして循環させることで、各施策・事業の計画から改善を一連の流れで継続して行い、さらに各事業の評価を常に行うことで、より効果的かつ効率的な行政運営を行います。

行政評価に取り組むねらい	
① 成果重視の 行政経営	めざすまちの姿の実現に向けて、基本施策・事務事業の達成度や妥当性を図ることにより、成果重視の最適な事業を推進します。
② 情報公開 説明責任	評価結果はホームページを通じて毎年公表することにより、事業の透明化を図るとともに説明責任を果たします。
③ 健全な 財政運営	評価結果をもとに事業改善や新規事業立案をする際、既存事業の優先順位を見直したうえで財源確保を図るスクラップ＆ビルドを行うことにより、財政の健全性を向上させ、持続可能な行政経営を行います。
④ 職員の 意識改革	評価を通じ、目的・成果・コスト意識をもつことにより、行政資源を効果的・効率的に活用する意識の徹底を図ります。多くの職員の主体的な関わりを通じて、職員の行政経営に対するモチベーションを上げていきます。



4. 社会の潮流

➤ 以下9点のポイントを社会の潮流として設定し、社会を取り巻く状況を踏まえて、本計画を策定しています。

(1) 激甚化する災害への備え

- 近年、自然災害のリスクが急激に高まっています。令和5年に発生した九州北部豪雨災害では、佐賀県内の各所で住宅倒壊や浸水などの被害が発生しました。急速に進む気候変動に伴い、災害の程度はさらに大きくなることが予想されます。
- 令和6年の元日には能登半島地震が発生し、石川県で観測史上初めてとなる最大震度7を観測しました。地震大国といわれる日本では、どの地方においても、予測を上回るほどの大地震に見舞われるリスクが高いといえます。
- 各地域で起こりうる災害のリスクを正確に把握することだけでなく、行政、民間、地域コミュニティで連携を図る取り組みや、多様な被災者ニーズを踏まえた対策、また最新の技術等を用いた効率的な災害対応が求められています。

(2) 多様性のある社会の実現

- 人々のライフスタイルは多様化し、働き方や暮らし方などに関する価値観はここ数年で大きく変化しています。人によって大きく異なる様々な状況・ニーズに柔軟に対応できる社会のあり方が問われています。
- 性別や年齢、障がいの有無などにかかわらず、全ての人が生きがいを感じられる社会を実現するため、支援の強化や社会的に不利な状況にある人々の活躍推進、孤独・孤立支援など、様々な取り組みが進められています。

(3) 地域経済における経済循環の重視

- 地域経済の全体的な縮小が懸念される現在、地域の生産力と消費行動を連動させて地域内で資金が循環する、持続的な経済循環構造が重要視されています。
- 働き方改革や最新技術の導入を通して地域の生産力・労働力を向上させ、生産額の適切な分配を経て最終的な地域住民の支出へとつなげていくための対策が求められています。

（４）スポーツ・文化芸術によるまちづくり

- オンラインが普及し、家で1人でも楽しめる環境は充実してきていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人に会えない期間が続いたこともあり、外出規制が緩和された現在では音楽やスポーツなど、リアルだからこそ感じられる価値があるものに対する注目が改めて高まっています。
- スポーツ・文化芸術の振興によって、人との交流や体を動かすことを通した地域住民の健康寿命向上だけでなく、地域のつながり強化による経済や社会の活性化が期待されます。
- 地域の伝統的文化や歴史、芸術などを活かした地域産業の発展、また音楽やスポーツの振興による訪問客の増加は、地域観光を盛り上げ、地域経済や過疎化・少子高齢化の課題解決につながっていきます。

（５）こどもや若者、子育て当事者の視点の重視

- 社会の多様化に伴い、こどもや若者、子育てをする親世代が抱える課題も多様化しています。当事者の目線に立ち、個々の状況に応じたきめ細かな支援と、誰も取り残さない柔軟な対応が求められます。
- これまで様々な少子化対策が進められてきましたが、実際には将来に不安を抱き、結婚や出産などの理想を諦めてしまう若者が増えているのが現状です。こどもや若者にとっての利益を第一に考え、個人の希望を実現できる社会を築くことが重要です。
- 核家族化や少子化が進み、家庭の生活様式も多種多様になった現在、子育てをする親の育児不安は増大しています。親だけが子育ての負担を感じることなく、社会全体でこどもを育てていくという考え方のもと、様々な支援体制の充実が進められています。

(6) 新しい健康社会の実現

- 人生100年時代といわれる近年、高齢になっても健康に仕事や生活を楽しみたいという人は増え、健康意識の向上がみられつつあります。少子高齢化も進む中、病気やけがのときの治療だけでなく、日々の生活における健康づくりの重要性が高まっています。
- 精神的な病気を抱える人が増加しており、体だけでなく心の健康にも焦点を当てた支援や対策が進められています。
- 地域における医師不足や病院不足も深刻化し、最新技術を応用した医療や救急医療体制の見直しが必要になってきています。

(7) コンパクトなまちづくり

- 少子高齢化が進む地域において、地域の活力を維持するためのコンパクトで持続的なまちづくりの考え方が取り入れられています。
- 地域内の商業・医療・福祉など生活機能の確保だけでなく、その拠点を結ぶ公共交通機関を整備することで、利便性の向上や環境への負担軽減が期待され、好循環を実現することができます。

（８）人中心の社会に向けた取組

- 近年は環境問題や貧困など、効率や利益のみを求める「モノ」の価値観を前提とした社会では解決できない課題が増え、人や自然を含む地球全体の調和を重視した社会への転換が進められてきました。
- 気候変動問題の解決に向けて、世界各国で温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させるカーボンニュートラルの達成に向けた取り組みが広がっています。
- 人々の価値観も物の豊かさから心の豊かさへと変化し、ハード面ではなく人の生活を中心としたソフト面に重きを置く社会や経済の構築が重要なテーマになりつつあります。
- ウェルビーイングを最大目的として取り組まれる施策が多くみられるようになり、ひとりひとりの幸福・健康が満たされ、尊重される社会の実現が目指されています。

（９）AI等の最新技術の活用

- AIやIoTなどの技術革新が急速に進み、それに伴う社会の変革が求められています。情報社会に続く新たな社会「Society5.0」が実現することによって、社会のあらゆる課題が解決されることが期待されます。
- 新しい技術を取り入れた様々なサービスが展開されており、企業や特定の団体だけでなく、国や県、市においても、デジタル技術を積極的かつ効果的に活用し、地域づくりや地域の課題解決につなげていくことが求められます。

5. 市の現状（5－1. 市の概要）

地 理

- 佐賀県の北西部に位置し、東部は福岡県糸島市、佐賀市と、西部は玄海町、伊万里湾を隔てて長崎県松浦市と、南部は多久、武雄、伊万里の各市に接し、北部は玄界灘に面した沿岸地域である。
- 玄界灘には、7つの離島が位置している。
- 総面積は487.60km²（佐賀県の面積の約20%）

自 然

- 中部は、緑豊かな田園地帯となっており、標高284mの鏡山の眼下には松浦川が流れ、穏やかな唐津湾とそれに続く玄海灘が広がっている。唐津湾沿いには、全長約4.5km、幅約500mの「虹の松原」があり、日本三大松原の1つに数えられ、国の特別名勝に指定されている。
- 東部は、玉島川が流れ、その上流は背振・天山山系の森林地帯となっており、檜原湿原や観音の滝など山村特有の自然景観を形成している。
- 南部は、県立自然公園に指定された背振・天山山系の森林地帯が広がっている。
- 北西部は、上場台地という丘陵地帯を形成している。玄界灘に面する変化に富んだリアス式海岸線一帯は、いろは島や波戸岬があり、玄海国定公園に指定されている。

気 候

- 日本海型気候区に属し、年平均気温は16℃～17℃で、過去10年の最高気温の平均は、35.7℃、最低気温の平均はマイナス2.3℃であるが、比較的温和な気候である。
- 降水量は、年間1,900mm程度で、冬期における降水量は少なく、6月から8月にかけて降水量が多い。

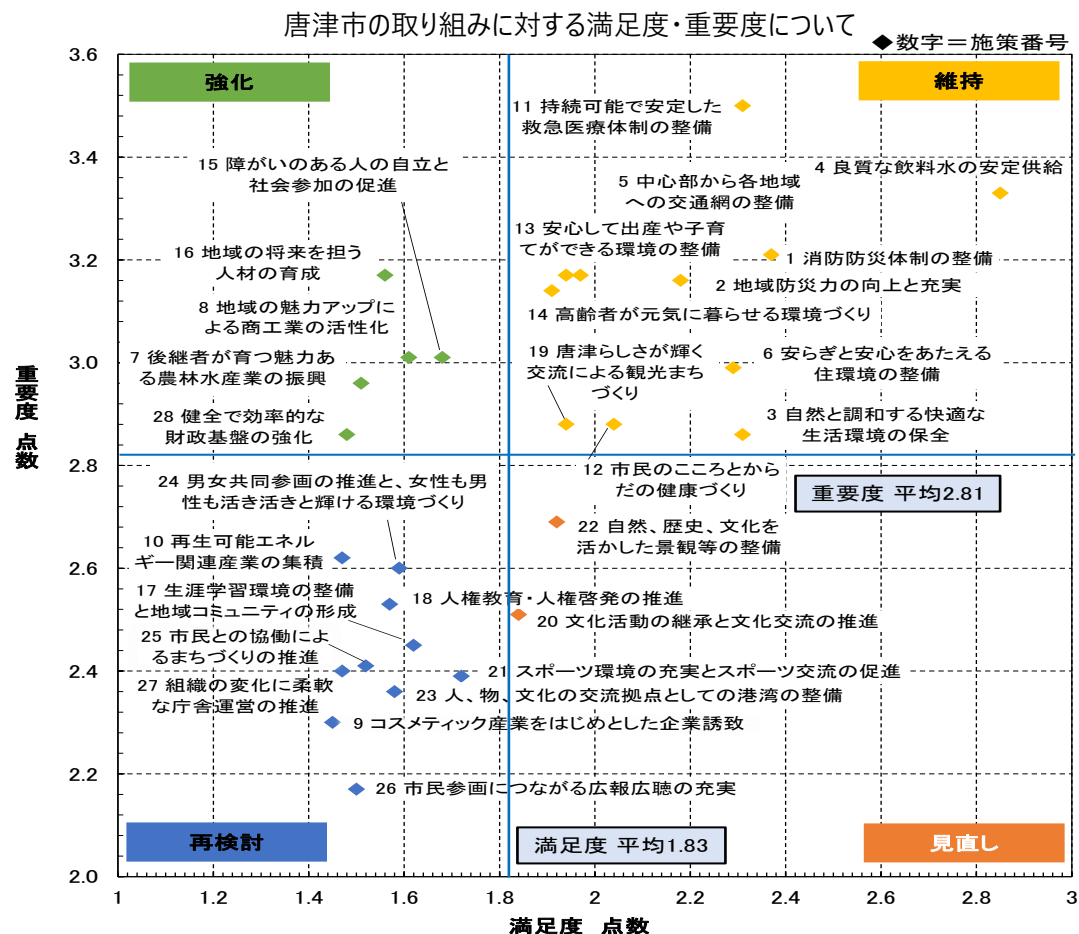
歴史と文化

- 古来から大陸との交流が盛んに行われ、「魏志倭人伝」には「末盧国」として記述された地域であり、朝鮮半島や中国大陆から様々な文化が取り入れられ、全国に伝わったと考えられる。
- 史跡として、松浦党の岸岳城址、獅子城跡や豊臣秀吉の朝鮮出兵の前線基地となった名護屋城跡などがあり、江戸時代になって築城された唐津城の城下町も市中心部に残っている。
- 重要無形民俗文化財として、国指定の「唐津くんちの曳山行事」と「呼子大綱引き」をはじめ、県指定の「広瀬浮立」、市指定の「浜崎祇園祭」、「天川浮立」など、各地域に伝統的な祭りが守り引き継がれている。

5. 市の現状（5－2. 市民意見【市民アンケート】）

- 第3次唐津市総合計画の策定にあたり、市民アンケートを実施しました。
- 唐津市の取り組みに対する市民の満足度・重要度を「強化（重要度が高いが満足度が低い）」、「維持（重要度と満足度が高い）」、「再検討（重要度と満足度が低い）」、「見直し（重要度が低く、満足度が高い）」の4つに分類しました。
- 強化に分類された施策は、速やかに改善策を検討するとともに、維持となった施策は引き続き満足度を維持・向上できるよう取り組みを実施します。

調査期間	2023年10月2日（月）～10月22日（日）
調査方法	発送は「調査票冊子を郵送」 回収は「回答用紙」または「Webアンケート」
対象者数	市内住民3000人 （年齢層別及び地区別の人口割合によって算出した割当人数を無作為抽出）
有効回収数	・紙アンケート 1,000通（82.4%） ・Webアンケート 213通（17.6%） 計1,213通（有効回収率：40.4%）



5. 市の現状（5－2. 市民意見【地域別ワークショップ】）

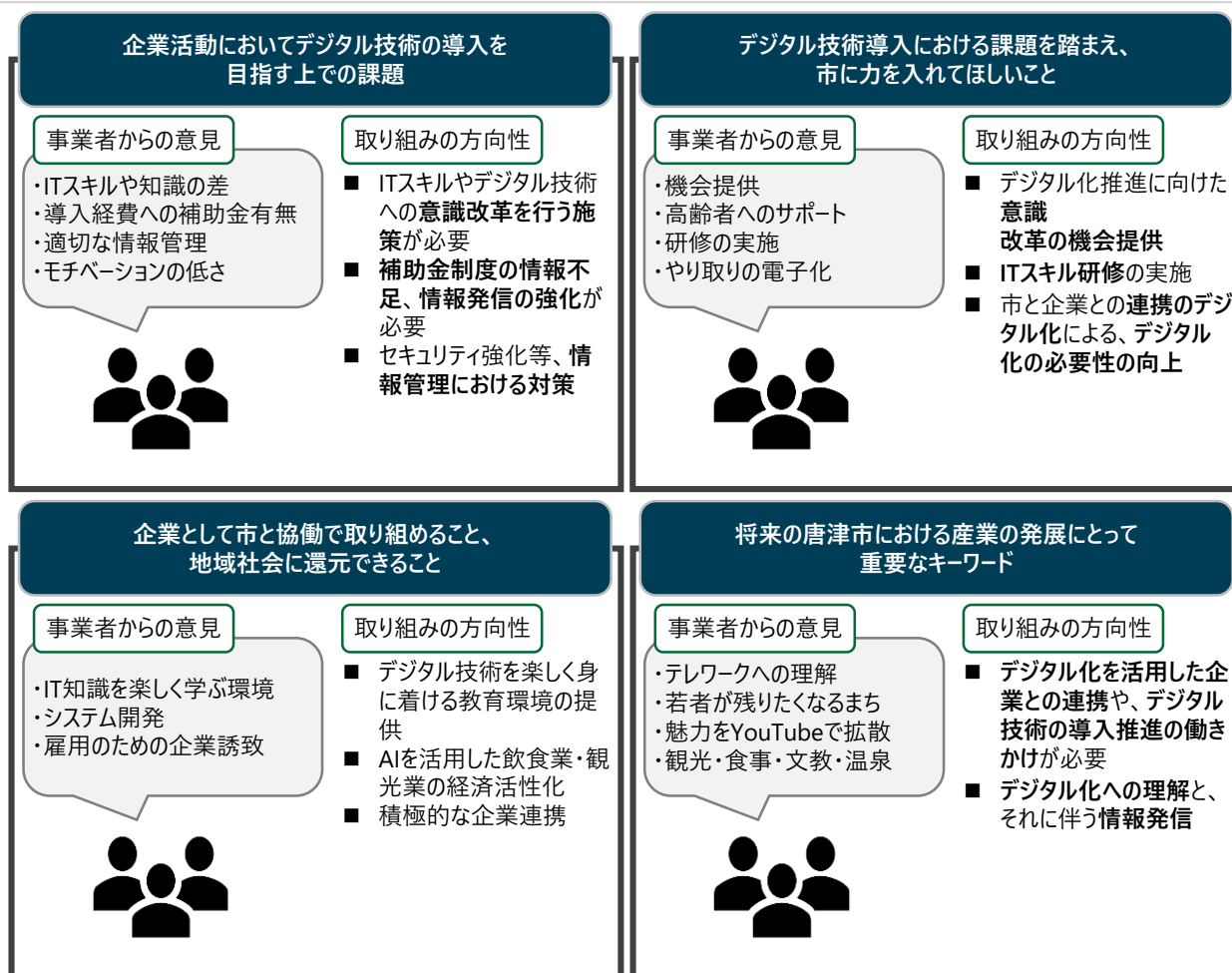
- 市の各地域にお住まいの方を対象に地域別ワークショップを2回実施しました。
- 第1回では地域の魅力や地域が抱える課題を検討し、第2回では第1回の検討結果を踏まえて目指すべき地域の姿、地域に必要な取り組みの検討を行いました。
- 地域住民の方と協働し、本ワークショップでご意見いただいた地域の将来像が達成できるよう取り組みを実施します。

開催日時	第1回：2023年11月1日(水) 19時～21時 第2回：2023年11月22日(水) 19時～21時	■ 第1回：地域の魅力や地域が抱える課題の検討結果							
対象地域	中央地域(唐津・浜玉・北波多)、 東部地域(七山)、 南部地域(厳木・相知)、西部地域(肥前)、 北部地域(鎮西・呼子)	住環境	道路	交通	福祉	教育	防災	自然	環境
参加者	各2回のワークショップにいずれも参加できる市内 在住者（または在勤者）で、18歳以上の人	○静かで住みやすい △空き家が多い・買い物場所が少ない	○整備されている △狭い	○中心地の公共交通機関が整っている △中心地以外は交通の便が悪い	○子供・高齢者の施設が充実している △遊び場が少ない、高齢化が進んでいる	○小学校が多い、自然環境がある △学力差がある、子供が少ない	○災害が少ない △避難場所が安全でない、災害が少ないから意識が低い	○海も山も豊かである △耕作放棄・汚染・動物と害虫の被害がある	○再生エネルギー事業が進んでいる △道路事情の悪さにより景観が損なわれる
開催方法	各回のテーマについて各地域でグループワークを行った。中央地域をメイン会場とし、各会場とオンラインで連携した。	景観	産業		観光	文化	スポーツ	その他	
開催目的	「第3次唐津市総合計画の策定」および「唐津市都市計画マスタープランの見直し」において、 ①市民意見の反映 ②地域と行政が協力してまちづくりを行うきっかけ作りを行う。	○広々とした自然の景観 △維持管理が来ていない	○特産物の生産や道の駅が活発化している △産業が少なく、若者が出ていく		○歴史的・自然的観光資源がある △PRが少ない、活気がない	○唐津焼や祭り行事がある、外国人観光客が増えた △PRが少ない、若者の行事不参加	○マリンスポーツ、ゴルフ等が盛んである △場所が少ない	○地域おこし協力隊による活動がある △飲食店が少ない	
コーディネーター	佐賀大学 理工学部 後藤隆太郎教授 / 唐津市都市計画マスタープラン等策定委員会 委員	■ 第2回：目指すべき地域の姿、地域に必要な取り組みの検討結果							
		将来像					将来像実現に必要な取り組み		
		・ チャレンジしやすく明るく活気がある地域 ・ ウチからもソトからも愛される地域 ・ 地元主体で動きつつも、行政の力強い協力を得られるような素敵な地域 ・ 豊かな自然の中で子供からお年寄りまでゆっくり暮らせる場所 ・ 教育で、地域社会を取り戻す！ ・ 自然環境の整った若い人もあつまる交流の地域 ・ 若者世代が暮らしやすい街づくり（※交通インフラ整備・手厚い子育てサポート等を重点的に）					・ 空き家を活用する ・ 公共交通機関の充実、道路整備を行う ・ 観光・文化の強化とその発信に力を入れる ・ 子育てのサポートを強化する ・ 遊びに関する施設を豊富にする ・ 故郷を学ぶ教育プログラムを行いつつ、行政・民間と一緒に教育に向き合い子供にとって良い場所を作る ・ 企業誘致の政策を行う		

5. 市の現状（5－2. 市民意見【企業向けセミナー】）

- 市内の事業者を対象に営業活動のデジタル化をメインテーマにセミナーを実施しました。
- セミナー内ではアンケートも実施し、事業者の皆さまから市への要望や、市と連携して行うまちづくりなどについて意見をいただきました。
- いただいた意見を踏まえ、市内の事業者の皆さまが円滑な事業活動ができるように、また協働のまちづくりを推進していけるよう取り組みを実施します。

開催日時	2023年11月16日(木) 15時～16時45分
テーマ	デジタル技術で変わる企業の未来
対象	唐津市内事業者
セミナー概要	1. 営業活動を向上・活性化させる3つのポイントを理解する 2. テレワークを導入してインサイドセールスで、見込み顧客の増加、顧客との関係性の向上を図る方法を理解する 3. 若者世代の特徴を知り、自社の採用強化に生かす 4. 子育て層の悩み・不安を解消する離職防止策を考える 5. テレワーク導入の4つのプロセスを理解する
開催目的	営業活動のデジタル化によって効果的に売り上げを拡大する方法に加え、その営業体制を継続するために必要な採用強化と離職防止に関する対策を中心にセミナーを通じて説明。 セミナー内やアンケート等にて市内事業者から意見を聴取し、市の次期総合計画に反映する。
講師	株式会社インソース 福岡 孝太郎 氏



5. 市の現状（5－2. 市民意見【関係団体アンケート】）

調査期間	2024年 1月11日(木)～25日(木)〔15日間〕	対象	地域別ワークショップ出席者が所属する団体のうち、NPOやまちづくり団体（12団体）
調査方法	郵送と電子メールの併用により実施	回答数	5 件

■ 第2次総合計画で課題が多いと感じる基本施策（回答数：5）

基本目標① 快適な生活と安全・安心のまちづくり

生活・まちづくりの分野では、地域防災力の向上と交通網の整備に課題が多いと感じられており、意見や要望も集中している。
今後起こりうる災害を見据えた具体的な対策や、効率的な交通機関の運用についての意見がみられた。

基本目標④ 生きる力に満ちた人をはぐくむまちづくり

教育分野に関して、地域の人材育成に関する意見が多く見受けられた。
具体的には、地域コミュニティ形成に向けて、若い世代の人材育成に課題を感じる声がみられた。

基本目標② 全ての産業が調和して生き生き働けるまちづくり

産業分野では、5団体中4団体が農林水産業の振興に課題が多いと感じると回答した。
地産地消を促す取り組みや、中心部から離れた地域の商工業の活性化について、意見がみられた。

基本目標⑤ 歴史と文化が輝く観光のまちづくり

観光については、文化活動と港湾整備に関する施策への回答は比較的多いが、全体として寄せられた意見は他分野より少ない。
港湾・海沿いの産業活性化など、観光資源の活用に関する意見がみられた。

基本目標③ 生涯を通じてこちよく暮らせるまちづくり

医療・福祉分野では、5団体すべてが出産・子育て環境の整備に課題が多いと感じると回答している。
こどもが遊ぶ場所の確保とともに、高齢者の居場所づくりや世代間交流についての意見もみられた。

基本目標⑥ 市民の力を最大限に引き出すまちづくり

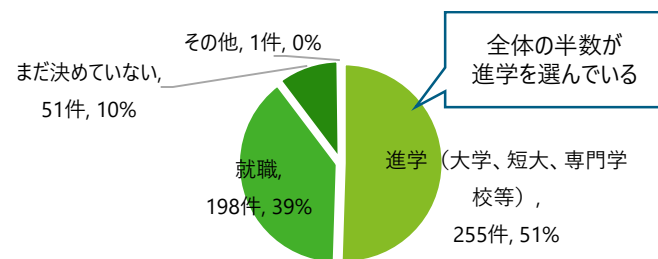
市民協働・行財政の分野では、5団体すべてが市民協働と財政基盤の強化に課題が多いと回答した。
市民協働のための市の積極的参加や、無駄を排除した財政運営などについての意見がみられた。

5. 市の現状（5－2. 市民意見【高校生アンケート】）

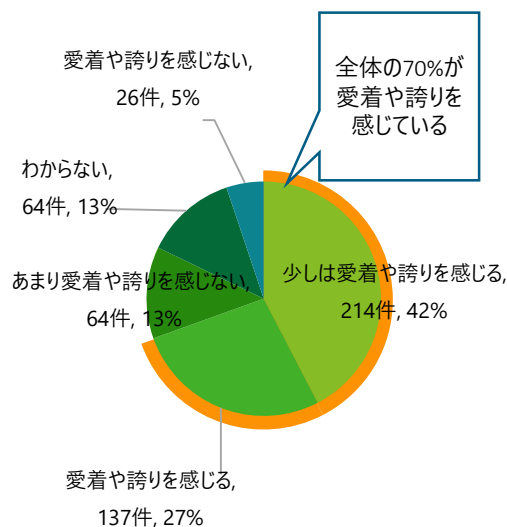
- 高校生を対象に進路や市に対する想いについてアンケートを実施しました。
- 高校卒業後の進学・就職に伴い、転出した若者のUターン率が低いことが喫緊の課題となっています。
- 本アンケートでいただいた意見を踏まえ、若者の移住・定住を促進させる取り組みを実施します。

調査期間	2023年12月18日(月)～2024年1月8日(月)の21日間
調査方法	Microsoft Formsを活用したWebアンケート
対象者	唐津市・玄海町内の公立・私立高校の生徒（各高等学校を介して調査協力を依頼）
有効回収数	505人(高校生年代が属する市内の15-19歳人口全体5,906人*の約9%に相当) ※総務省統計局「令和2年度国勢調査」の値に基づく

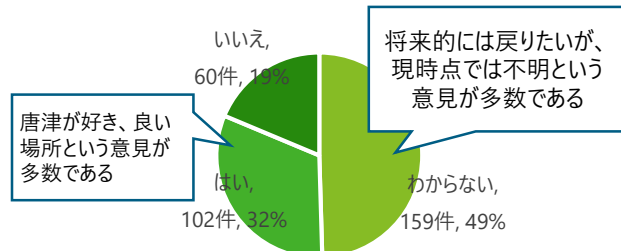
■ 卒業後の進路（回答数505）



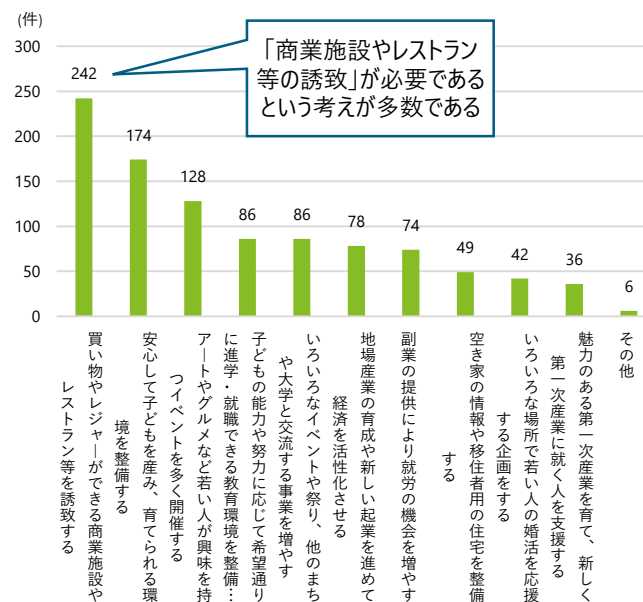
■ 唐津市に対する愛着や誇り（回答数：505）



■ 将来的な唐津市へのUターン意向の有無（回答数321） ※卒業後の住居地に「唐津市外」を選択した方対象



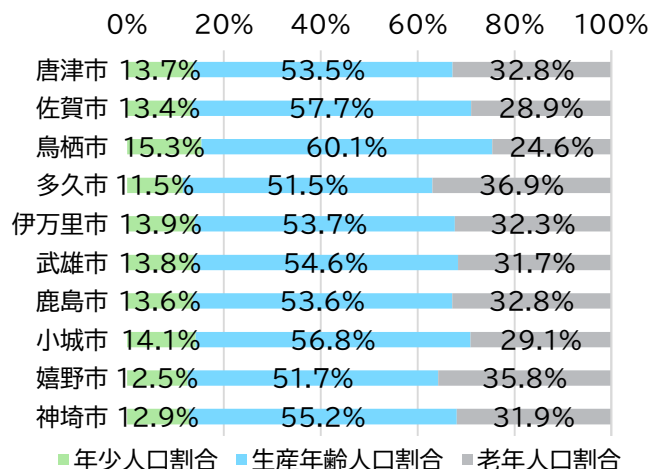
■ 若い世代に対する移住推進のための施策についての考え方（回答数：1001）※1人2つまで選択可



5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【人口】）

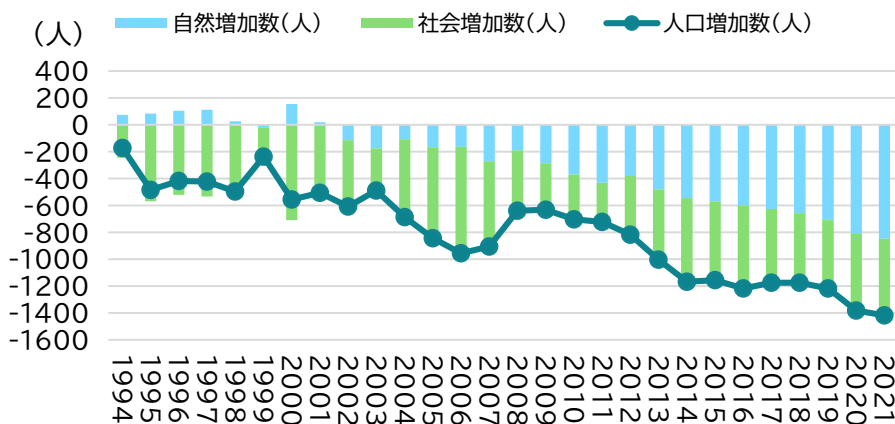
人口の年齢構成の県内10市との比較（2020年）

唐津市は佐賀市や鳥栖市と比較すると、**老年人口の割合が高く、高齢化の実態が顕著である。**



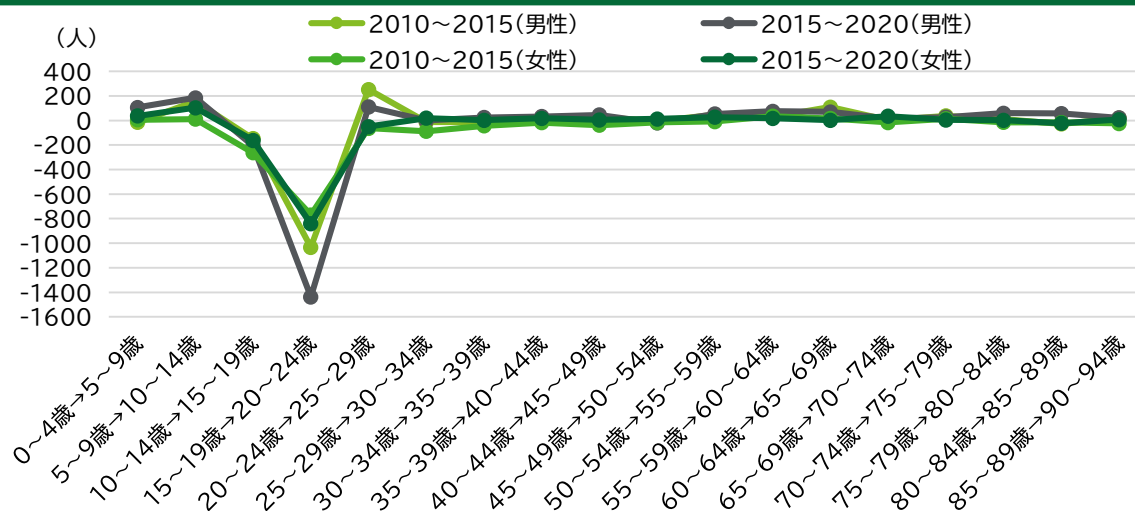
唐津市の自然増減・社会増減の推移

自然増、社会増ともに年々減少数が増加し、人口流出が続いている。



性別・年齢階級別の人口移動の状況

男女ともに15～19歳、20～24歳の期間で大幅な転出超過となっている。
性別で見ると、女性よりも男性の方が転出超過数は多くなっている。
25歳～29歳の期間では反転して転入超過となるが、前述の転出超過をリカバーはできていない。
以降の年代の動きは±50人前後でほとんど横ばいである。

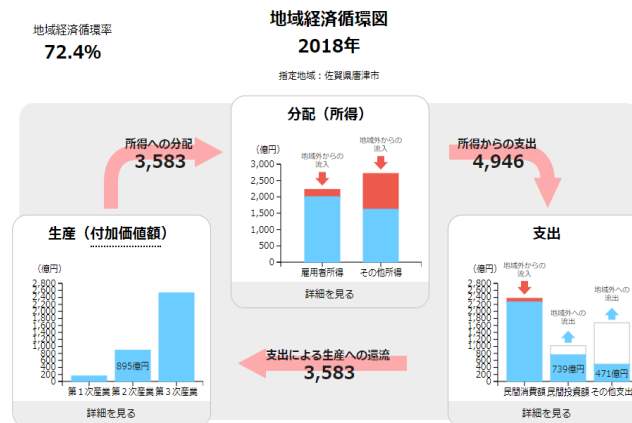


5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【経済・産業】）

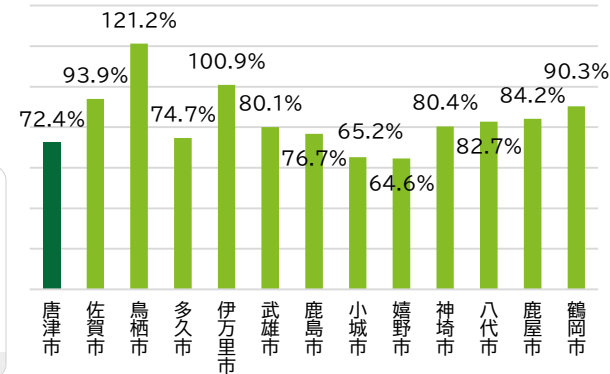
唐津市の地域経済循環状況（2018年）

地域経済循環図をみると、唐津市内で生産した付加価値額に対し、市民が得る所得総額の方が多く、所得は地域外から流入していることがわかる。また、その所得に対し、消費総額は多いことから消費は流入しているが、投資総額は少なく、投資が流出していることがよみとれる。

地域経済循環率を他市と比較すると、唐津市は72.4%で比較市の中では3番目に低い。

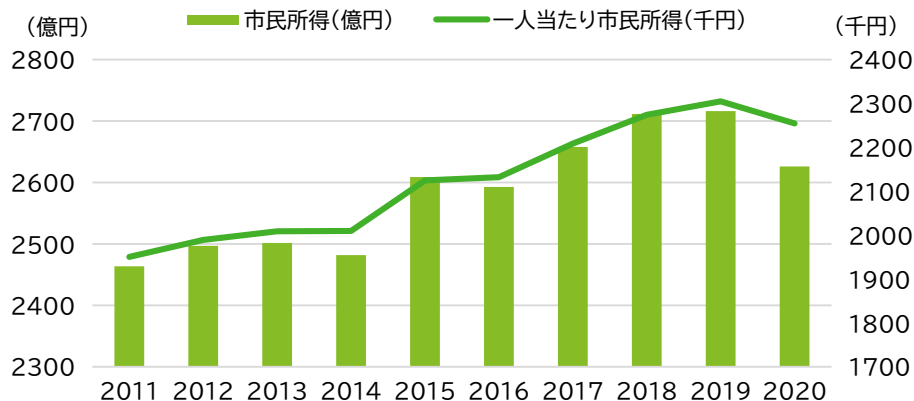


地域経済循環率の他市比較



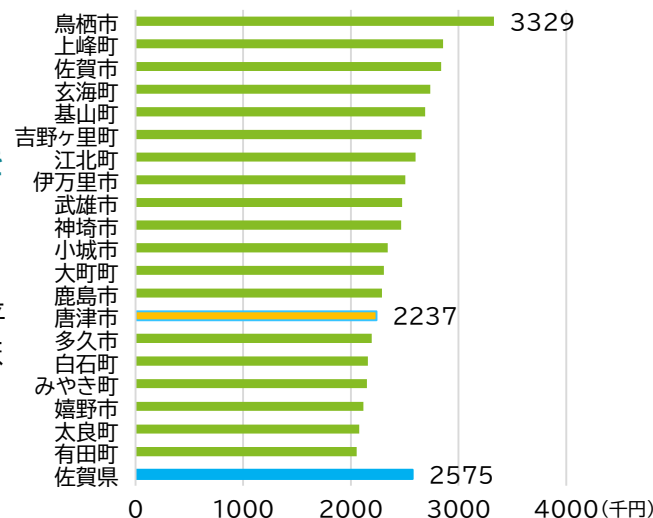
市民所得の推移

唐津市の市民所得、一人あたり市民所得は2011年以降、増加傾向にあったが、2020年は前年度に比べて減少している。



市民一人あたりの所得の県内市町比較（2020年）

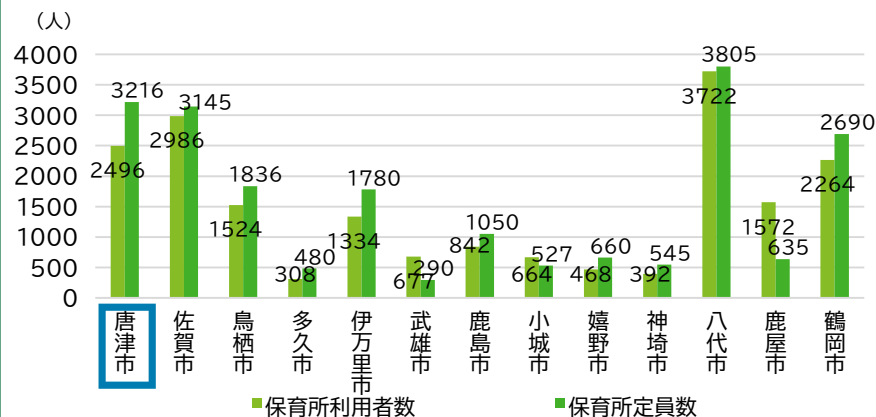
唐津市の市民一人あたりの所得を県内市町で比較すると下から7番目に低い。
これは佐賀県の平均よりも30万円ほど少ない。



5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【教育】）

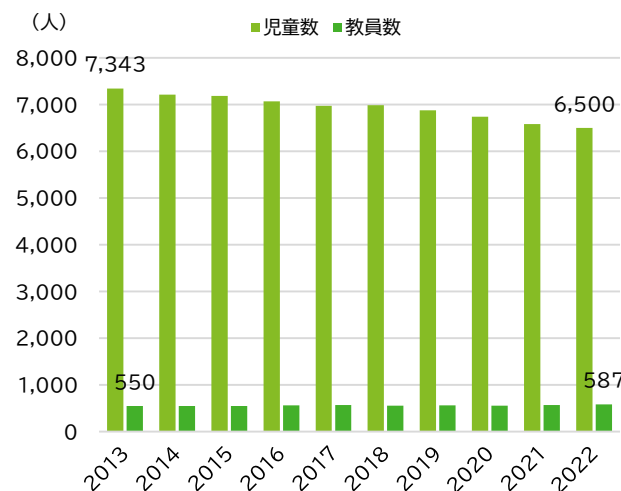
保育所利用者数(2023年)と保育所定員数(2022年)の他市比較

唐津市の保育所利用者数、保育所定員数は佐賀市や類似市と大差はなく、**利用者数に対して定員数は充足している。**



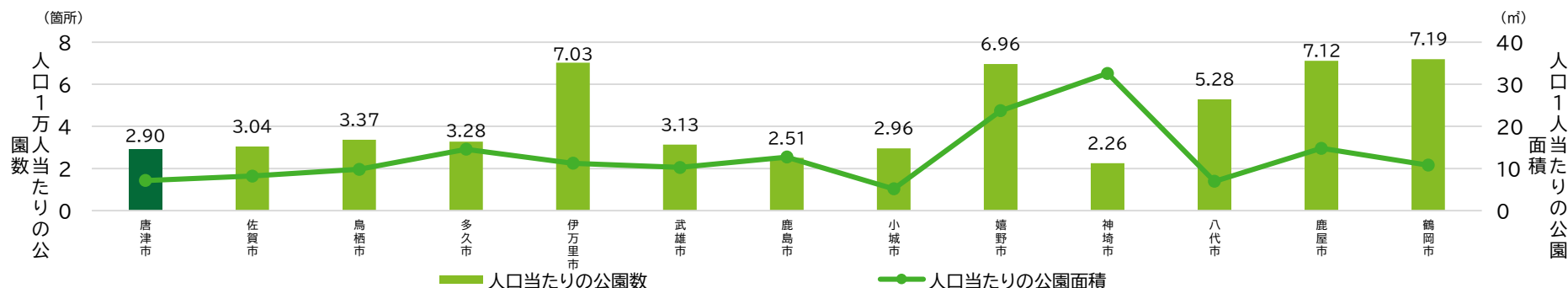
小学校児童数・教員数

小学校をみると、**児童数は2013年以降継続して減少し、2022年には2013年より800人以上の減少となった。一方、教員数については微増傾向にあり、2022年は2013年より37人多い587人となっている。**



人口1万人当たり公園数・1人当たり公園面積の他市比較（2022年）

唐津市の公園数を特に類似団体と比較すると、面積が同程度のため**公園の広さは伺えるものの、公園数は大きく下回っている。**



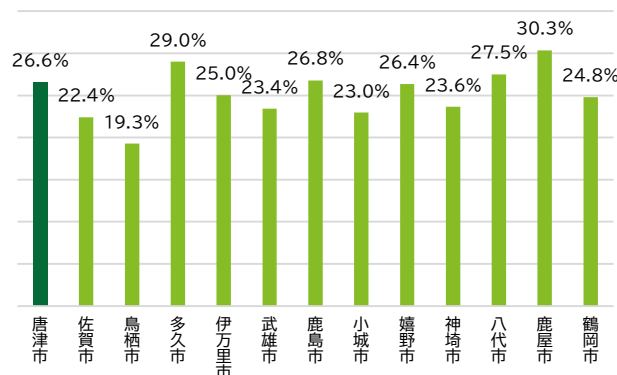
5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【医療・福祉】）

一般世帯数に占める、高齢世帯数・6歳未満のこどものいる一般世帯数の割合（2020年）

高齢世帯割合26.6%に対し6歳未満のこどもをもつ世帯割合が9.3%と、**他市と比較して高齢世帯、子育て世帯ともに割合が比較的高いことがわかる。**

人口規模が同程度の類似市は高齢世帯数が多い一方、子育て世帯数は少ない傾向にあり、唐津市では対策の両立が課題となる。

一般世帯数に占める高齢世帯数割合の他市比較

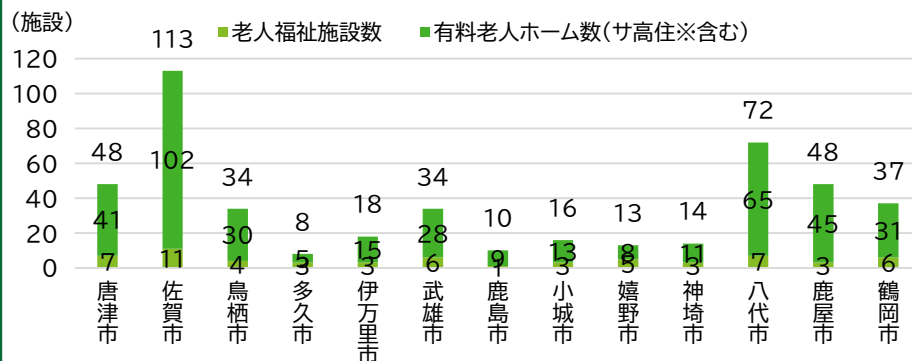


一般世帯数に占める6歳未満のこどものいる一般世帯数割合の他市比較



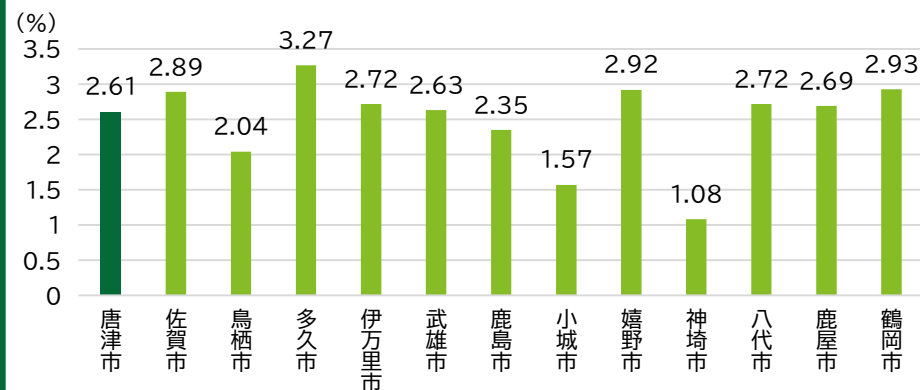
老人福祉施設、老人ホーム数の他市比較（2021年）

唐津市の老人福祉施設、老人ホーム数は、人口規模が同程度の類似市と比較し、**鹿屋市や鶴岡市とは同程度であるが八代市を大きく下回る。**



障がい者雇用率の他市比較

唐津市の障がい者雇用率は2.6%で、佐賀市や類似団体市より低い水準である。

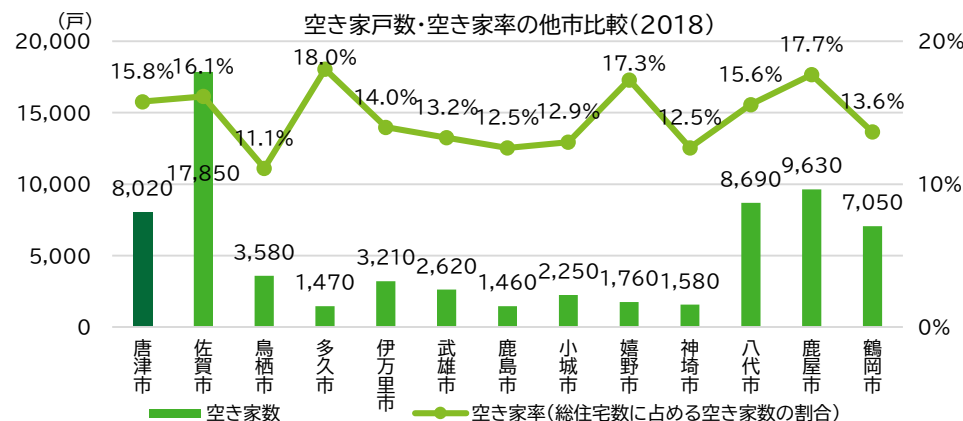


5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【都市基盤・生活環境】）

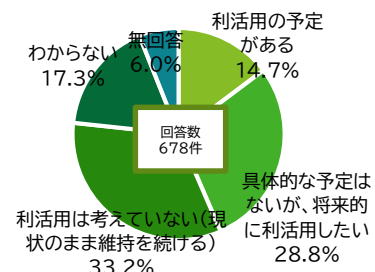
唐津市の空き家状況

唐津市の空き家率は15.8%で他市と比べ比較的高い水準である。

一方、空き家となった建物の利活用について、利活用は考えていないと回答した人が最も多く33.2%であり、市民が安心して住み続けられる住環境の整備が必要となる。

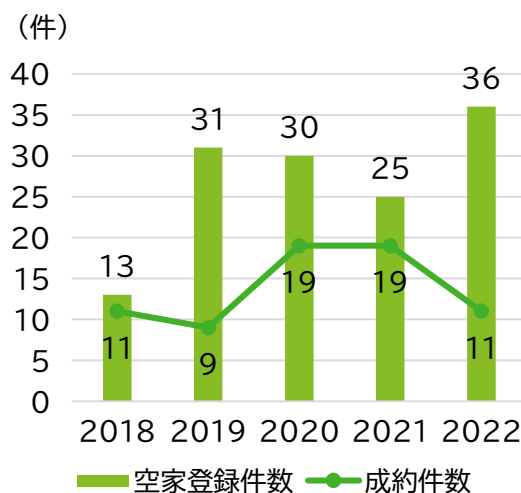


空き家となった建物の利活用について(2021)



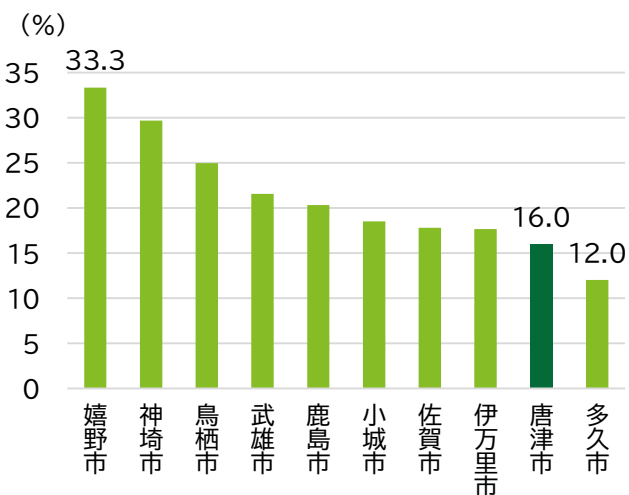
空き家バンク登録・成約件数の推移

空き家バンクに登録されている空き家の数は、2022年に過去5年間で最も多い登録件数となっているが、唐津市の空き屋総数を踏まえると、未だ高い水準とは言えず、**今後は登録数の増加とともに、成約数の増加にも注力する必要がある。**



リサイクル率の県内比較(2021年)

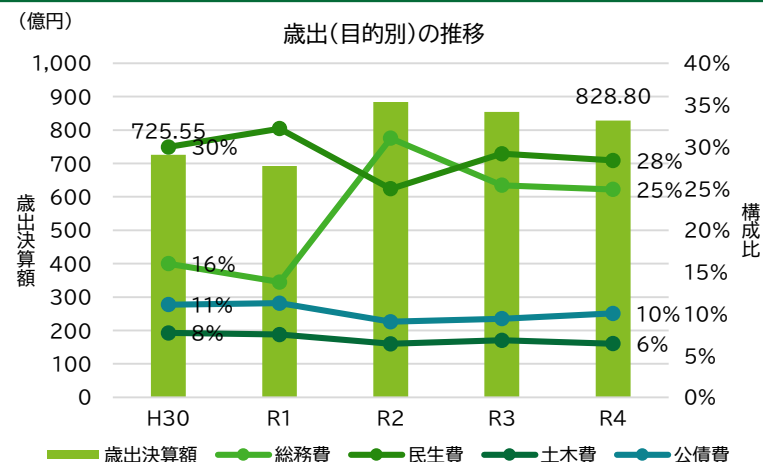
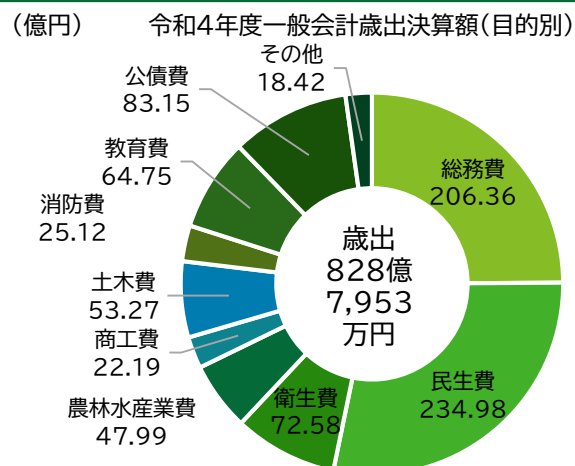
2021年のリサイクル率を県内市部で比較すると、**唐津市は多久市に次いで2番目に低い値となっており、ごみのリサイクル体制には課題があるといえる。**



5. 市の現状（5－3. 市を取り巻く環境や課題【行財政】）

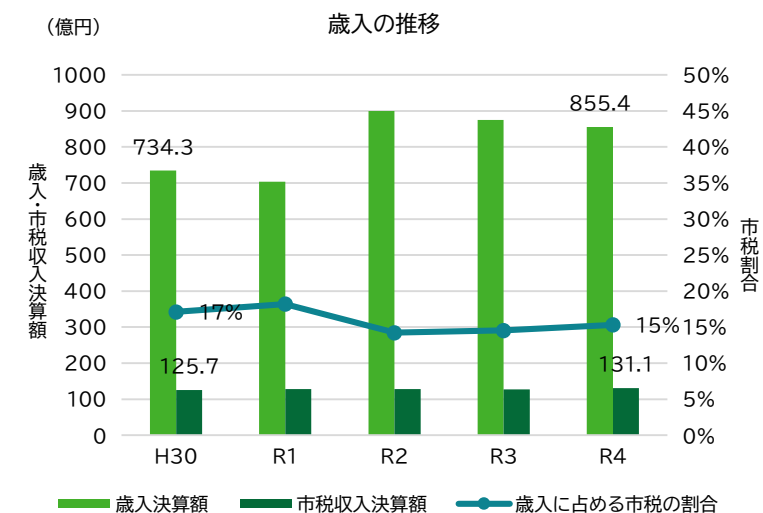
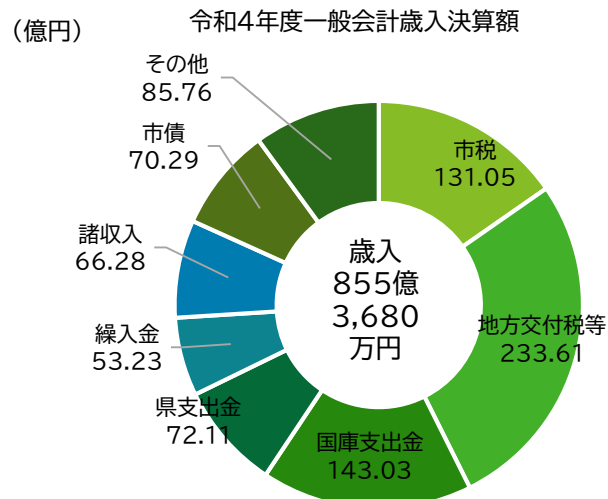
令和4年度一般会計歳出決算額（目的別）と推移

目的別歳出の推移をみると、令和2年度に総額が約200億円上昇した後は緩やかな減少傾向にある。
令和4年度は前年度に比べ約25.3億円減少しているが、新庁舎整備費や鏡山小学校改築事業費の減額が大きく影響している。



令和4年度一般会計歳入決算額と推移

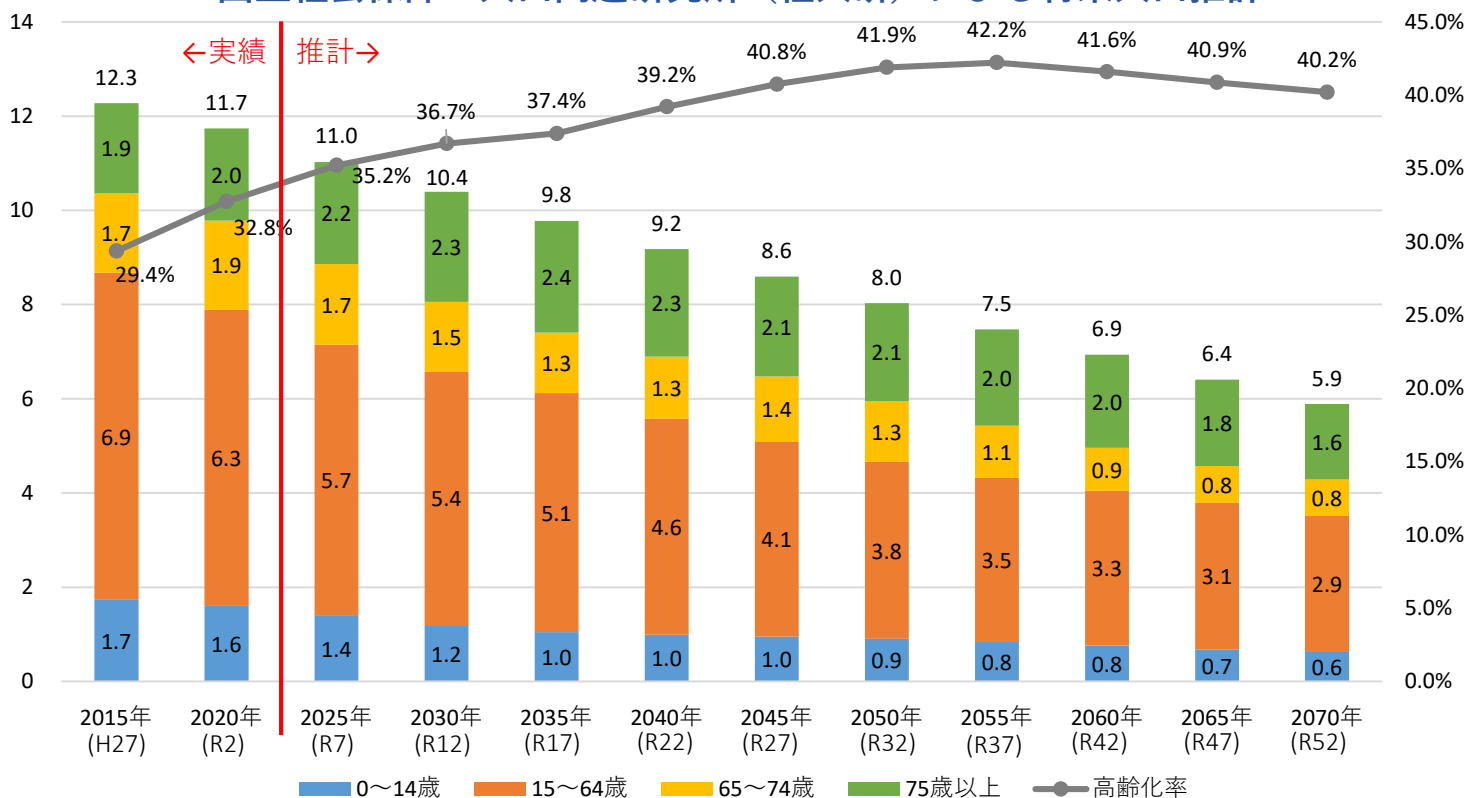
唐津市の歳入構成をみると、市税、地方交付税がその中心となっており、歳入の42%を占めている。
これらの収入は、使途の制約を受けずに使い方を独自に決めることができる「一般財源」の中心となるものである。
唐津市には大きな企業が比較的に少ないことなどの理由により市税が少ないため、必要な一般財源の確保を地方交付税に大きく依存している。



6. 将来人口推計

(万人)

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による将来人口推計



- 市全体の人口は今後減少に転じ、R52(2070)年に、約5万9千人になると推計
- 年少人口（0～14歳）は、R2(2020)年の約1万6千人からR52(2070)年には約6千人と約62%減少すると推計
- 生産年齢人口（15～64歳）は、R2(2020)年の約6万3千人からR52(2070)年には約2万9千人と約54%減少すると推計
- 高齢化率は、R27(2045)年には40%以上になると推計
- 今後、人口減少・少子高齢化に伴い、労働力の減少による地域経済の活力低下や社会保障費の増加などが懸念される。

※社人研が公表している人口推計は2050年(R32)までであり、2055年(R37)以降の人口推計は社人研と同様の推計方法により、唐津市独自の推計で表したものと推定される。

社人研の前回推計（平成30年3月）と今回推計（令和5年12月）の比較

- 2045年で見した場合、前回推計9.0万人から今回推計8.6万人へと4,000人少なくなっている。
- 要因のひとつとして、20～24歳人口の流出増加と、25～29歳人口の流入減少などが考えられる。
- また、前回推計よりも高齢者の人口流出に減少傾向が見られることから、高齢化率が高くなっている。
- 本市で高齢化率のピークを迎えるのは、前回推計では2050年の39.3%であったが、今回推計で2055年の42.2%となっている。

基本構想

I. まちづくりの基本方針

1. めざすまちの姿
2. 基本目標
3. 基本姿勢

II. 計画体系図

Ⅰ. まちづくりの基本方針

1. めざすまちの姿

- めざすまちの姿とは、市民と広く共有できる将来に向けたまちのイメージとして、本市がめざす姿を表現したものです。
- これまでの市民参画による意見や社会情勢の背景を踏まえて、めざすまちの姿として3つのフレーズ案を作成し、最もふさわしいのはどれか、インターネットを通じた市民投票を実施しました。
- その結果、最も多く選ばれたのは、「③魅力ある自然と文化が、住みたい・訪れたいにつながり えられるまち からつ」でした。
- このフレーズ案を、市民投票で寄せられたご意見などをもとに再度練り直し、めざすまちの姿として「魅力ある自然・歴史・文化にあふれた 住みたい 訪れたい 選ばれるまち からつ」を設定しました。

めざすまちの姿

～魅力ある自然・歴史・文化にあふれた 住みたい 訪れたい 選ばれるまち からつ～

インターネット市民投票の結果概要

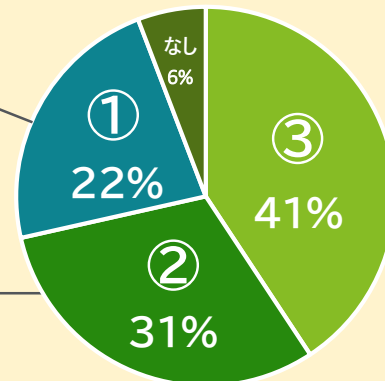
調査期間	2023年12月25日（月）～2024年1月8日（月・祝）の14日間
調査方法	Webアンケート
対象者	唐津市民 （唐津市公式ホームページ・SNS等を介して調査協力を依頼）
有効回収数	533回答 （市内の人口全体にあたる115,475人*の約0.4%に相当） * 唐津市公式ホームページ掲載の令和6年1月4日現在の人口。 住民基本台帳上の外国人を含む。

Q：今後、「唐津市がめざすまちの姿（将来像）」として、最もふさわしいと思うものを、次の中から1つだけ選んでください。

回答数：533人

フレーズ案①
「活気にみちた、
たくさんの魅力が
あふれるまち からつ」
22%

フレーズ案②
「ひと・自然・産業が
響きあう、安心して
誇れるまち からつ」
31%



フレーズ案③
「魅力ある自然と
文化が、住みたい・
訪れたいにつながり
えられるまち
からつ」
41%

- 唐津の宝である自然環境と調和し共存する市民と、その土地を訪れ楽しむ来訪者が魅力を感じ、様々な目的でたくさんの人々が集まり、選ばれるまちであってほしいという想いを込めました。

- 唐津の自然と文化は世界に誇れるものであり、めざすまちの姿として最もふさわしいと感じた。
- 唐津には自然や歴史、文化に惹かれて訪れる方が多く、今後も目指す姿に合っていると思うから。
- 住みたい、住んで良かったと思えるまちづくりを目指し、市内外の人が魅力を感じるまちになって欲しい。
- 若い世代に定住してもらえるまちになってほしい。

フレーズ案③に
込めた想い

フレーズ案③に対する
主な市民意見

2. 基本目標

- 基本目標とは、本市の強みを伸ばし、課題を克服するためのまちづくりの基本的な方向性として掲げる目標です。
- 第3次唐津市総合計画においては、5つの政策分野を設定し、基本目標としています。

めざすまち
の姿

～魅力ある自然・歴史・文化にあふれた 住みたい 訪れたい 選ばれるまち からっ～

基本目標

1【くらす】

みんなの力で 安全で
安心して暮らせる
多様性のあるまちへ

- 近年、頻発する災害に備えて「公助」の強化はもちろんのこと、「自助」の意識付け、「共助」の連携強化につながる取り組みを推進し、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- 人と人とのつながりや地域コミュニティを大切に、将来にわたってつながり、暮らしていけるまちづくりを進めます。

2【にぎわう】

はたらきたい いってみたい
と 多くの人に選ばれ
にぎわうまちへ

- 魅力ある農林水産業の振興、企業誘致、創業に関する支援などに向けた取り組みを推進し、産業の活性化を図るとともに、市内での雇用を促進し、経済的に潤いがあり、にぎわいのあるまちづくりを進めます。
- 観光、スポーツ、文化の振興を通じて多くの人々がまちを訪れることで、たくさんの人でにぎわいのあるまちづくりを進めます。

3【そだてる】

未来をひらくからっつ子を
大切に地域で育むまちへ

- 結婚・妊娠・出産・子育ての各段階に応じた切れ目のない支援を充実することで、子どもを産み育てたいと思えるまちづくりを進めます。
- 学校・家庭・地域の相互の連携と協働により、将来を担う子どもたちが、たくましく育つまちづくりを進めます。
- 自然・歴史・文化を活かした生涯学習環境を整備し、未来に向かって学びあい、成長していけるようなまちづくりを進めます。

4【すこやか】

ささえあう心で すこやかな
笑顔にあふれるまちへ

- 地域のつながりによる支え合い・助け合いを基本としながら、子どもから高齢者、障がいのある人もない人も全ての方が、福祉のセーフティネットからこぼれることなく、住み慣れた地域ですこやかに暮らせるまちづくりを進めます。
- 医療サービスを充実させながら、多くの方が健康づくりに親しみ、心身ともにすこやかに暮らすことができるまちづくりを進めます。

5【ここちよい】

豊かな地域資源を
活かした
快適で住みやすいまちへ

- 人口減少社会を見据え、多極ネットワーク型コンパクトシティの実現、空き家対策などを通じて市民が快適に暮らせるまちづくりを進めます。
- 市内の居住地域に左右されない、誰もが快適に移動できる公共交通基盤のあるまちづくりを進めます。
- 魅力ある良好な景観を整備することで、市内外の人にとって魅力ある景観となるようまちづくりを進めます。
- カーボンニュートラル、自然共生社会の実現に取り組み、人と自然が調和した、環境負荷の少ないまちづくりを進めます。

3. 基本姿勢

- 総合計画の推進にあたって、各分野のまちづくりにおいて共通して踏まえるべき事項を基本姿勢として設定しています。
- 第3次唐津市総合計画においては、2つの基本姿勢を設定しています。

めざすまちの姿

～魅力ある自然・歴史・文化にあふれた 住みたい 訪れたい 選ばれるまち からつ～

基本目標

1【くらす】
みんなの力で安全で
安心して暮らせる
多様性のあるまちへ

2【にぎわう】
はたらきたい いってみたい
と多くの人に選ばれ
にぎわうまちへ

3【そでてる】
未来をひらくからつっ子
大切に地域で育むまちへ

4【すこやか】
ささえあう心ですこやかな
笑顔にあふれるまちへ

5【こちよい】
豊かな地域資源を
活かした
快適で住みやすいまちへ

支える

基本姿勢

多様な主体の活躍

- 地域課題や市民ニーズが複雑多様化する中、行政の力だけでめざすまちの姿を実現できるものではありません。
- 行政、市民、団体、事業者等の多様な主体が、あらゆる分野において、お互いの立場を理解し対等な関係で、それぞれの強みを活かしながら、連携・協力することが大切です。
- 市民や団体、事業者等がそれぞれの分野で活躍できる環境づくりとともに、組織や既存の枠組みを超えて、行政や地域づくりに参画しやすい仕組みづくりを進め、地域の多様な力を活かしたまちづくりに取り組みます。

持続可能な行財政運営

- 本市の財政状況の見通しが大変厳しい状況にあっても、将来にわたって必要な行政サービスを安定的に提供し続けなければなりません。
- このためには、財源や人材、施設等の限られた経営資源を有効活用し、持続可能な行財政運営を確立していくことが求められます。
- 施策・事業の推進にあたっては、財源や人材を重点的に投入する「選択と集中」とともに、課題の解決・改善につながり効果を上げる「実効性の確保」を重視していきます。
- また、市民サービスの向上と行政コストの削減に向けて、デジタル化を推進しながら、業務の効率化や職員・組織体制の見直し、施設総量の最適化などに取り組みます。

II. 計画体系図

➤ 5つの基本目標を実現するために、それぞれの政策分野に紐づく基本施策を設定します。

めざすまちの姿	基本目標		基本施策	
魅力ある自然・歴史・文化にあふれた 住みたい訪れたい選ばれるまちからつ	基本目標1 【くらす】	みんなの力で 安全で安心して暮らせる 多様性のあるまちへ	1 消防・防災	① 市民生活を守る消防・救急体制の強化 ② 防災体制の整備と地域防災力の強化
	基本目標2 【にぎわう】	はたらきたい いってみたいと 多くの人に選ばれ にぎわうまちへ	2 地域社会	③ 学びを通じた持続可能な地域づくりの推進 ④ 様々な暮らし方を応援する移住・定住の促進 ⑤ 男女共同参画の推進と多文化共生社会の形成
	基本目標3 【そだてる】	未来をひらくからつ子を 大切に地域で育むまちへ	3 経済・観光	⑥ 地域資源の魅力アップによる流通強化 ⑦ 地域経済を活性化させる商工業の振興と創業支援 ⑧ 新しいにぎわいを生み出す成長産業の立地促進 ⑨ 唐津らしさが輝く交流による観光まちづくり
	基本目標4 【すこやか】	ささえあう心で すこやかな笑顔に あふれるまちへ	4 農林水産	⑩ 後継者が育つ持続可能な農林水産業の振興 ⑪ 農林水産業の維持・発展に向けた生産基盤の整備促進
	基本目標5 【ここちよい】	豊かな地域資源を活かした 快適で住みやすいまちへ	5 スポーツ ・文化芸術	⑫ 誰もが楽しみをもち感動できるスポーツ交流の促進 ⑬ 郷土を誇りに思い豊かな心を育てる文化芸術の継承
	基本姿勢	多様な主体の活躍 持続可能な行財政運営	6 子ども・子育て	⑭ 安心して出産や子育てができる環境の整備 ⑮ 全ての子どもが笑顔で元気に育つ環境づくり
			7 教育	⑯ 未来を担う子どもを育む学校教育の充実 ⑰ 世界に誇れる文化財と歴史遺産の保護・活用
			8 健康・福祉 ・医療	⑱ 地域共生社会の実現に向けた基盤づくり ⑲ こころとからだの健康づくりと医療体制の確保 ⑳ 高齢者が自分らしく元気に暮らせる長寿社会の実現 ㉑ 障がいのある人の自立と社会参加の促進
			9 環境	㉒ 自然と調和する快適な生活環境の保全 ㉓ 持続可能な未来社会に向けたカーボンニュートラルの実現
			10 都市基盤 ・交通	㉔ 安らぎと安心をあたえる住環境の整備 ㉕ 多極ネットワーク型コンパクトシティの形成 ㉖ 豊かな自然と歴史的なまちなみを活かした景観等の形成